

No.3 多発している屋根、はり、もや、けた、合掌 - 墜落・転落の死亡災害事例（2018年）

2018年発生月	発生時	死亡災害事例	業種 (小) コード	起因物 (小) コード	事故の型 コード	労働者規模
12	8～9	請け負った倉庫の外壁工事が終了したため、足場の解体作業を行っていた。被災者は駐輪場の屋根に置いてあったインパクトドライバーを取りに行き、駐輪場の屋根から屋根（巾約80cm）に移動しようとしたところ、足を滑らせ約2.3m下のコンクリート床に墜落したものの。その後容体が急変し脳挫傷により死亡した。	30201	415	1	30～49
12	10～11	平屋建ての個人住宅（最大H=4.5m）の屋根上で、1人で屋根の袖（妻面側のふち）の屋根瓦の交換作業を行っていたところ、高さ約3.2mの位置から地面まで墜落した。会社では日常的には安全帯等の墜落防止措置を取っていなかった。なお、一人作業での墜落災害であり、墜落時の詳細は不明。	30209	415	1	10～29
12	10～11	ログハウス（平屋建て）の屋根葺き作業において、屋根端部から約2.9m下の地上に墜落し、頭部を強打したものの。負傷から11日後に死亡。	30209	415	1	1～9
11	14～15	被災者は、2階建てアパートの屋根上で塗装作業を行っていたところ、屋根の端から足場作業床に墜落し、さらに作業床の手すりの下から地面まで墜落したものの（屋根の端から地面までの垂直高さ：約6.7m）	30309	415	1	1～9
11	16～17	死亡した被災者は1階屋根の下地工事中、屋根上を移動していたときに、軒先で作業していた別の作業員と接触し、軒先から2.75m下のコンクリート地面に墜落し死亡した。	30202	415	1	1～9

11	10 ～ 11	台風により破損したスレート屋根補修作業中に、スレートを踏み抜き、高さ約10mから墜落したものの。	30309	415	1	1 ～ 9
10	10 ～ 11	工場にあるテント倉庫の天井が台風の影響で吹き飛ばされたため、ブルーシートがかけられた状態になっていた。ブルーシートに雨水がたまり、たわんでいたため、被災者は、テント倉庫の屋上に歩み板を敷き、柄杓とバケツで水を抜いていたところ、テント内に墜落し、死亡したものの。	30209	415	1	1 ～ 9
10	12 ～ 13	工場のスレート屋根（明かり取り用）を交換する作業を行っていた労働者が、スレートを踏み抜いて高さ約5.23メートルの位置からコンクリート床に墜落したものの。	30209	415	1	10 ～ 29
10	12 ～ 13	工場の屋根補修工事を行っていた労働者が、屋根（スレート）を踏み抜き、地上まで9.3メートル墜落し死亡したものの。	30309	415	1	10 ～ 29
10	8 ～ 9	上記支所内、購買倉庫のスレート屋根の雨漏り補修のため、職員6名が屋根に登りブルーシート掛け段取り作業中、被災者が明かり取り部分（ポリカーボネート部材）を踏み抜き約6.21m下に墜落した。（搬送先の病院で、死亡が確認された。）	170209	415	1	30 ～ 49
10	12 ～ 13	倉庫の屋根の補修工事の見積もりを行うため、同屋根上で屋根材の寸法測定を行っていた被災者が転倒し、同屋根の明かり取りの部分の屋根材を突き破り、約7メートル下の床面に墜落し、医療機関に搬送されたが、同日死亡した。	30202	415	1	10 ～ 29
10	16 ～ 17	台風により被災した倉庫の屋根を修理するため、補修材を持ち屋根上を移動中、スレートを踏み抜き9.8m墜落、死亡したものの。	30309	415	1	1 ～ 9
10	14 ～	台風により、敷地内の倉庫のスレート屋根が破損したことから、破損部分をビニールシートで覆う作業を被災者を含む2名が行なっていたところ、スレート屋根を踏み抜き約5.5メートル下のコンクリート	140301	415	1	30 ～

	15	床に墜落したものの。					49
10	10 ～ 11	台風により破損した屋根明かり取り用FRP波板取替作業のため、被災者と同僚が屋根（スレート葺き）に登り、波板の取替作業を行っていたところ、バランスを崩し同建屋屋根上から建屋内に約4m墜落したものの。被災者は保護帽は着用していたが、安全帯は着用しておらず、屋根には安全帯取付設備や防網は設けられていなかった。なお、屋根上には幅約20cmの歩み板2枚が設けられているものであった。	30201	415	1		1 ～ 9
9	8 ～ 9	台風の強風で資材倉庫屋根上の手摺りとネットフェンスの一部が吹き飛ばされたため、復旧作業を行っていたところ、屋根の端より2.8メートル下に墜落したものの。	30199	415	1		1 ～ 9
9	12 ～ 13	既設住宅の屋根改修工事のため屋根上で屋根材を設置していたところ、何らかの原因でバランスを崩し、当該住宅周囲に設置していた単管足場を使用した屋根上の手すりの隙間からメッシュシートを破って、隣地駐車場のアスファルトに約5.98m墜落した。	30203	415	1		1 ～ 9
9	16 ～ 17	一般住宅に隣接する物置小屋の改築工事において、代表者、被災者、施主の3名で屋根の上に上り、防水シートを貼る作業を行っていたところ、被災者が屋根から約4m下のコンクリートの地面に墜落したものの。	30209	415	1		0
9	8 ～ 9	鉄骨造1階建工場建屋建築工事に4人の屋根板金職人のうちの1人として入場した労働者が、他の3人の職人とともに梁の上に上って鋼板製屋根材を順次敷設する作業を行っていたところ、鉄骨梁に鋼板製屋根材を固定しようとした際に、当該屋根板の端部から高さ7.65メートル下の地面（砂利）に墜落して死亡したものの。	30209	415	1		1 ～ 9
9	8 ～	スレート屋根の雨漏り補修工事を鉄骨平屋建ての工場の屋根上で行っていたところ、1箇所目の作業が終わり、次の箇所へ移動中にスレート屋根を踏み抜いて高さ約8メートルの位置から工場内へ墜落して死	30209	415	1		10 ～

	9	亡したものの。現場では歩み板は使用しておらず、被災者は安全帯を着用していたが使用していなかった。					29
9	18 ～ 19	被災者は一人で災害発生場所である個人宅の1階及び2階の屋根の雨どいの清掃作業を開始したが、同宅敷地脇の水路の中で、意識を失って倒れているところを発見され、病院に搬送されたが死亡が確認された。	150101	415	1		1 ～ 9
9	12 ～ 13	木造2階建て店舗兼住宅の屋根雪止め交換工事において、長さ7.3mの雪止め用丸太を2階屋根上へ上げるため、丸太にロープを掛け、被災者ほか1名が高さ5.44mの2階屋根から引き上げていたところ、被災者が地面へ墜落し、死亡した。	30209	415	1		1 ～ 9
9	16 ～ 17	台風により破損したスレート屋根の応急処置のためビニールシートで養生中、右手をついた箇所のスレートが折れ、約3m下に落下し、後頭部等を強打したものの。	30209	415	1		1 ～ 9
9	8 ～ 9	鶏糞発酵建屋の屋根材が台風で吹き飛ばされたため、ビニールシートで養生する前の段取りのために、屋根上に上っていたところ、劣化した樹脂製波板を踏み抜いて5.3m墜落した。頭・胸・腹部の外傷を負った。	70101	415	1		50 ～ 99
9	12 ～ 13	台風により損傷した屋根の応急措置としてブルーシートによる養生を行っていた。被災者が屋根の梁部を通行中、誤ってスレート部分に足を掛け、踏み抜き、約1.2mの高さから墜落した。(安全帯装着なし。歩み板なし。)	30209	415	1		1 ～ 9
9	10 ～ 11	台風による2階建住宅の被害調査及び雨漏り養生を行うため、被災者と同僚の2名は屋根上で防水シート養生を行っていたが、防水シートが足りなくなったため、同僚がシートを取りに行っている間に、2階屋根から1階屋根に立てていたはしごを降りようとしたところ、一旦1階屋根に墜落して、地面まで墜落したものの。保護帽、安全帯は使用していない。被災者は緊急手術後も意識不明の状態であったが、後日死亡した。	30201	415	1		50 ～ 99

9	14 ～ 15	台風により倉庫の屋根が破損したため、雨漏り防止用シートを敷くために、被災者と同僚がスレート拭き屋根上に上がり、2名で屋根端部から丸めたシートを広げていたところ、被災者が棧と棧の間のスレートを踏み抜き、約5 m下に墜落した。屋根には歩み板、防網は設けられておらず、被災者は保護帽、安全帯を使用していなかった。	11209	415	1	1 ～ 9
9	8 ～ 9	被災者は2階建集合住宅の塗装工事現場において、2階屋根の軒先5.5 mから、敷地境界に設置されたアルミ柵の上に落下した。現認者不在のため推定であるが、被災者は屋根上の化粧小窓の塗装のため、外部足場から屋根に渡り、傾斜角度25度の屋根上を移動中に足を滑らせ、建物外周に設けられた足場の手すり(約1 m)を乗り越えたか、手すりの下をくぐり抜けて墜落したものと考えられる。	30209	415	1	1 ～ 9
8	12 ～ 13	台風により飛ばされた工場建屋の屋根張替え工事に従事していた労働者が屋根上を通行していたところ、屋根に葺かれた木毛板を踏み抜き、約13メートル下の工場床面に墜落して死亡した。	30201	415	1	1 ～ 9
8	8 ～ 9	牧場の牛舎屋根上にスプリンクラーを設置する作業を行う際に、スプリンクラーのホースを通すため、牛舎の屋根に上って作業を行っていたところ、屋根の明かり取りに乗った際に踏み抜き、約4.7 m下の牛舎内通路に墜落した。容体急変し、死亡した。	70101	415	1	10 ～ 29
8	14 ～ 15	車両所運用検修センター資材庫の雨漏りに対する屋根補修作業完了後、地上に戻ろうと屋根上を移動していた際に、スレート屋根の重ね合わせの部分が浮いていると感じた被災者が、スレートを何度か踏んで浮きを確認していたところ、スレートを踏み抜いて約4.5 m下の地面に墜落し、死亡した。	30201	415	1	1 ～ 9
8	10 ～ 11	工場の雨漏り補修工事のため、スレート屋根の上を被災者と共同作業者Aの2名で板金材を運搬するために移動していたところ、スレートを踏み抜き、約9.8 m下のコンクリート床に落下し、死亡したものの。	30203	415	1	1 ～ 9
		木造2階建て家屋の屋根の雨漏り改修のため、1階と2階の屋根瓦を				

8	14 ～ 15	全面葺き替える作業を代表者とアルバイト労働者（被災者）の2名で行っていたところ、2階屋根で作業をしていた被災者が1階北側樹脂波板上に墜落し、頸椎圧迫による酸欠で死亡したもの。被災者等はヘルメットや安全帯を着用しておらず、防網や足場も設けていなかった。	30202	415	1	1 ～ 9
7	8 ～ 9	倉庫の屋根の改修工事現場において、当該倉庫の屋根の上でスレートの撤去作業を行っていたところ、スレートを踏み抜いて、高さ約6.5メートルの箇所から、コンクリート床面に墜落したもの。	30201	415	1	1 ～ 9
7	10 ～ 11	鉄骨造のD形倉庫の新築工事現場において、鉄骨の建方作業中、屋根下地の溝形鋼（チャンネル材）のボルト締めのため、もやに乗って移動していたところ、もやが折れて6.4m下のコンクリート床に墜落し、搬送先の病院で6時間半後に外傷性脳損傷により死亡したもの。保護帽と胴ベルトの安全帯を着用していたが、安全帯は使用せず、親綱の設置も無かった。	30201	415	1	1 ～ 9
6	12 ～ 13	地震、火災等の非常事態を作業員に知らせるために、数ヶ月前に約30台の非常灯・サイレンを設置し、初期調整のため午前中に5台の設定を終了、午後から災害発生場所である製品倉庫内のクリーンルームの前室の天井（高さ3.7メートル）に設置した同機の設定のため天井を歩いたところ、天井を踏み抜き墜落したもの。	30301	415	1	1 ～ 9
6	16 ～ 17	学生共同住宅（2階建軽量鉄骨）の屋根塗替工事現場において塗装作業中、屋根の南側端部から地上に墜落した。（高さ6.05m）	30201	415	1	1 ～ 9
5	16 ～ 17	被災者は、鉄骨スレート屋根葺き工場において、塔屋足場の組立作業をしていたところ、スレート屋根を踏み抜き、10.5メートル下のコンクリート床に墜落した。被災者の近くで同僚が作業していたが被災者の墜落した状況は確認していない。被災者は保護帽、安全帯を着用していた。スレート屋根には踏み抜きを防止する防網、道板は設置されていなかった。	30309	415	1	1 ～ 9

5	16 ～ 17	平屋民家の屋根葺き替え工事において、雨漏り防止のため、被災者が屋根にブルーシートをかけていたところ、バランスを崩し、軒先から約5 m下の地面に墜落し、死亡した。	30202	415	1	1 ～ 9
4	8 ～ 9	倉庫解体工事におけるスレート屋根撤去作業中に、屋根上で作業していた被災者が木毛板を踏み抜き約8 m下の地面に墜落した。被災者の災害直前の作業状況から判断すると、屋根上のベンチレータを取り外そうとしたときに、木毛板に足をかけてしまったものと推定される。	30201	415	1	10 ～ 29
4	8 ～ 9	工場の屋根及び雨樋の修繕工事において、現場代理人である被災者が同工場の波板スレート屋根（スレート部分とFRP部分あり）を歩いていたところ、FRPの波板を踏み抜き、約8.6メートル下のコンクリート床に墜落して死亡した。	30201	415	1	10 ～ 29
4	16 ～ 17	工場解体工事において、屋根上で波型スレートの取り外し作業中に出来た開口部から、約9メートル下のコンクリート床に墜落した。	30209	415	1	10 ～ 29
4	12 ～ 13	被災者は地上から高さ3 m 93 cm以上の1階屋根上で瓦に跳ねた漆喰の清掃作業中、屋根上から道路に墜落し、死亡した。屋根上の周りは手すりが設置されていなかった。また、被災者はヘルメット、安全帯を着用。墜落時は、安全帯を使用していなかった。	30203	415	1	1 ～ 9
3	14 ～ 15	事業場敷地内の破損した倉庫の屋根（ポリカーボネート樹脂板）の修理作業を単独で行っていた被災者（元大工）が、高さ5.57 mの屋根の波板を踏抜き、地上に墜落し倒れているのが発見された。被災者は病院に搬送されたが、死亡が確認された。発見時の被災者は保護帽、安全帯ともに未着用であり、屋根に防網等も設置されていなかった。	30109	415	1	1 ～ 9
		木造平屋建て牛舎の新築工事現場において、屋根下地の組立て作業を行うに当たり、被災者は地上で垂木材の玉掛け作業を行った後、建屋				

2	16 ～ 17	内部に設置した移動はしごを用い、高さ6.04mの母屋上に移動した。その後、一方の足を母屋（幅9cm）に、もう一方の足を既に固定していた垂木（幅4.5cm）の上へのせ、同僚が仮置きしていた垂木を固定しようとする等していたところ、建屋内部の地面に墜落したものの。	30202	415	1	10 ～ 29
2	16 ～ 17	中学校のガラス製の屋根の清掃作業中に、ガラスを踏み抜き、高さ約1.5mから地面に墜落して死亡した。屋根は、網入りガラス約150枚（1枚あたり約1平方メートル）がそれぞれ金属枠（幅6センチメートル）に碁盤の目状にはめこまれていた。被災者は、金属枠の上で作業をしていたが、ガラスに乗った際、踏み抜いた。屋根には歩み板、防網、安全带取付設備、手すり等は未設置で、被災者は保護帽、安全带を未着用であった。	150101	415	1	10 ～ 29
1	10 ～ 11	地震による瓦災害工事において、中2階の下屋を施工中に、軒先の板に足を突っ込み、体勢を崩して6.9m下の土手に転落したものの。	30202	415	1	1 ～ 9
1	14 ～ 15	被災者は、平屋の児童館の屋根上（片流れ屋根）において除雪業務を行っていたところ、屋根の雪と一緒に約1.8m下の雪山に滑り落ち、雪の下敷きとなり埋まり被災した。災害発生時、屋根に積もった雪が自然に落ちるよう、被災者を含む3名で屋根上の煙突回り等の隅部を除雪していたもの。被災者の他に1名が被災者と同様に埋まったが、この者は救助され怪我はなかった。	30199	415	1	1 ～ 9
1	8 ～ 9	工事中の工場建屋の屋根上で荷下ろし作業を終えて、被災者が移動中に足を滑らせ7.5メートル下の地上の敷鉄板上へ墜落した。当該屋根端部には墜落防止用の手すり及び中さんが設置され、屋根上には親綱が設置されていたが、被災者は安全带を使用しておらず、降雪後は除雪に支障をきたす幅木は取りはずされていたため、手すりをすり抜けて墜落したものである。	30201	415	1	1 ～ 9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_07.html